

第6学年〇組 外国語活動 学習指導案

日 時
児 童 数
場 所
指 導 者

1 単元名 Who is your hero? あこがれの人 (We Can!1 Unit9)

2 単元について

(1) 学校研究主題との関連

本校の学校研究主題は「自分のよさを知り、互いに認めあう児童の育成」である。この主題を受け、日々の授業において、言語活動の中で、児童ひとりひとりにスポットライトをあてる場を設定し、指導をすすめている。本単元においても、**Big voice, Eye contact, Smile, Try** の徹底で、コミュニケーションの土台を大切に、他者と関わりあい、認めあいながら活動させる場を設定することで、本主題の達成を目指す。また、教師が児童をほめる場面を意図的に設定し、児童がお互いに励ましたりほめたりする場面を増やすことで、自信をもって力を発揮し、互いに認めあうことができる児童を育成する。

(2) 単元設定の理由

①教材観 (言語材料)

本単元は、全8時間の配当時数から構成されているが、今年度移行期にあたり、6学年では2時間で実施する計画となっている。本校では、本単元を3時間扱いとし、単元最後に発表活動を行い、これまで学んだ英語表現を視覚化し、自分の気持ちを英語で表現する楽しさと達成感を児童に味わわせたい。ねらいは、表現に慣れ親しむことで、単元名の **Who is your hero?** を話題として取り上げ、児童があこがれたり尊敬したりする人について紹介する。

限られた時間で学習するため、内容として以下の2つを選んだ。1つ目は、あこがれたり尊敬したりする人について紹介する表現 (状態や気持ちを表す) に慣れ親しむこと、2つ目は、既習の **can** を合わせて実際に使用させることで、その使い方を深く理解させ、ことばを自分のものとして習得させることである。

本時では、スモールトークで、先生があこがれの人を紹介する場面を見せるところから始める。**cool** (かっこいい) , **gentle** (優しい) など、自分の意見を含めて人を紹介する表現にどんなものがあるのかを「聞くこと」で推測させる。教師がどのように自身のヒーローを紹介するかを知り、単元最後の発表活動にもつなげたい。多くの新出単語が出てくるため (下記参照)、音声と意味を一致させるために、カルタゲームを有効に使ってインプットを行う。その後、“**Poka Poka Time in English**” 「話すこと (やりとり)」の言語活動に発展させていく。“**Poka Poka Time in English**”は、本校の道徳科の授業で実施している「ぼかぼかタイム」とのつながりを意識した。道徳科では、児童同士がお互いのよかったところを伝えあう時間をとることで認めあう児童の育成を目指している。本時の授業で出会う英語を使って、お互いのよさを伝え、認めあう気持ちよさを児童に感じさせたい。

本単元で扱う主な言語材料

○Who is your hero? This is my hero. [He / She] can (cook well).

○[He / She] is [active / kind / cool / great / fantastic / friendly / gentle / brave].

②児童観

<省略>

③指導観

主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業の実践を心がける。そのために、目指すゴールは何かを念頭に、見通しをもたせる指導を行っていく。そのために、以下のことに留意して指導にあたる。

- ・見通しをもたせる工夫として、毎時間、黒板に本時の流れを掲示する。また、あいさつから振り返りまでの学びの流れを毎時間ほぼ同じにすることで、児童にとって心地良い学びの流れを作る。
- ・言語活動には、児童にとって身近な対象を設定したり、互いに「知りたい」「伝えたい」という思いを喚起しやすい話題を設定する工夫を行う。ゲームの勝ち負けや単なる音声訓練ではない、目的や場面、意図を意識した授業内容を念頭に指導していきたい。ただし、そのような活動には十分なインプットが土台となるので、ねらいに向けて、言語習得のためのゲームを効果的にバランスよく取り入れていく。
- ・**Big voice, Eye contact, Smile, Try** の徹底を通して、コミュニケーションの土台を大切にし、他者と関わりあい、認めあいながら活動させるよう指導する。
- ・支援の必要な児童への手立てとして、安心して授業を受けることができるよう、間違いを恐れず、質問しやすい雰囲気作りを継続して行っていく。そのために、教師が児童をほめる場を意図的に増やし、また、個別の声かけをして支援していく。
- ・児童の伸びを見取るために、振り返りシートを活用する。コメントを与えることで、次の学びにつなげる意欲をもたせる。

(3) 学力向上に向けた取組（学力向上プランとの関連）

学力向上プランにおける本校の課題は「基礎・基本の定着」と「生き生きと表現し、伝えあい、学びあう児童の育成」である。また、同プランにおける外国語活動の指導の重点は「ゲームや会話を通してコミュニケーション能力を育成する」ことである。これらの課題と指導の重点を受け、本単元においては、十分なインプット活動によって「基礎・基本の定着」を図り、目的や場面、意図を意識した言語活動によって「生き生きと表現し、伝えあう」力を伸ばし、目標である児童の育成を目指していく。

3 単元の目標

- ・自分があこがれたり尊敬したりする人について、自分の意見を含めて紹介し合おうとする。
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・第三者が得意なことを表す表現に慣れ親しむ。
【外国語への慣れ親しみ】

4 単元の指導計画と評価計画

(1) 単元の観点別評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	自分があこがれたり尊敬したりする人について、自分の意見を含めて紹介している。
外国語への慣れ親しみ	第三者が得意なことを表す表現に慣れ親しんでいる。
言語や文化に関する気づき	

(2) 単元の指導計画・評価の視点

時	目標 (◆) と主な活動 (【 】、○) * 【 】 = 誌面化されている活動	評価			
		コ	慣	気	評価規準<方法>
1 本時	◆ある人について、自分の意見を含めて紹介しあおうとする。 ○Greeting ○Song ○Phonics ○Daily Questions ○Small Talk「先生のヒーローを知ろう」 先生のあこがれの人紹介で、ねらいにせまる。 ○Practice 新出単語の口頭練習 ○Activity1 「カルタゲーム」 ○Activity2 「Poka Poka Time in English」	○			・ある人について自分の意見を含めて紹介している。 <行動観察・振り返りシート>
2	◆あこがれたり尊敬したりする人について自分の意見を含めて紹介する表現に慣れ親しむ。 ○Greeting ○Song ○Phonics ○Daily Questions ○Small Talk 「先生のヒーローを知ろう2」 ○Practice 前時の復習と得意なことを表現する単語の口頭練習 【Chant 1】 ”Who is my hero?” 【Let's Watch and Think】 視聴覚教材を見て、これから学習する内容にイメージをもたせる。 【Let's Listen5】 音声を聞いてわかったことを書いてみよう。 ○Activity 「あなたのヒーローを紹介する文を書いてみよう」		○		・あこがれたり尊敬したりする人について、自分の意見を含めて紹介する表現に慣れ親しんでいる。 <行動観察・振り返りシート>
3	◆あこがれたり尊敬したりする人について自分の意見を含めて紹介しようとする。 ○Greeting ○Song ○Phonics ○Daily Questions 【Chant 1】 ”Who is my hero?” 【Let's Watch and Think】 発表のモデルを見せ、発表ルールを確認する。 ○Practice 発表の練習 ○Activity 「ヒーローを紹介しよう」(発表)	○			・あこがれたり尊敬したりする人について自分の意見を含めて紹介している。 <発表・ワークシート・振り返りシート>

5 本時の学習指導 (1 / 3)

(1) 目標

ある人について、自分の意見を含めて紹介しあおうとする。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

(2) 展開

時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価<方法>	準備物
10分	<p>1 Greeting</p> <ul style="list-style-type: none"> あいさつをする。 <p>2 Warm Up</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Song <ul style="list-style-type: none"> ウォームアップソングを歌う。 ○Phonics <ul style="list-style-type: none"> フォニックスを行う。 ○Small Talk① ○Daily Questions <ul style="list-style-type: none"> 曜日・日付・天気を言う。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の模範となるよう、教師自身が元気よくあいさつをする。 4つのルール Big voice, Eye contact, Smile, Tryを確認する。 音声教材を聞かせ、一緒に歌う。 “What do you want to be?”の話題でクラスメートと話す。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教材 月、日付、天気カード
5分	<p>3 Today's Goal</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいを知る。 ○Small Talk② <ul style="list-style-type: none"> ALTとJTEの会話を聞き、内容を推測する。 	<p>T1: Look. This is my hero. He is Doraemon. He has Dokodemo Door. He can go anywhere. He is fantastic.</p> <p>T2: Yes, that's right! He is fantastic.</p> <p>T1: Who is your hero? T2: This is my hero. She is Ms. Sasagawa. She can sing. She is kind. How about you? Ms. Sasagawa?</p> <p>T3: This is my hero. He is Obata Haruo, super volunteer. He can help many people. He is brave.</p> <p>T1 T2: He is brave!</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真を使いながら児童と英語でやりとりをすることでねらいにせまっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> Small Talk 用写真
<p>Who is your hero? ① 友だちにすてきなほめ言葉をおくろう。 人を紹介する言い方にどんなものがあるかな？</p>			
5分	<p>4 Practice</p> <ul style="list-style-type: none"> active, cool, fantastic, friendly, gentle, kind, brave 有名人にあてはめて練習 He/She is active... 本時の学習内容の語と文の口頭練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ねらいを黒板に提示し、本時で何を学ぶのかを明確にする。 Big voice (大きな声) を示し、はっきりと発音させる。 はじめは、Small Talk②で教師が紹介した人物に使われていた語から練習する。 有名人のカードを黒板のあてはまる形容詞のカードの下においていく。 Small Talk で使った人物を活用し、He が男性に使われること、She が女性に使われることを暗示的に理解させる工夫をする。 デモンストレーションを見せて、これから行う活動を理解させる。 ルールの Big voice, Tryを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> フラッシュカード
10分	<p>5 Activity</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Card Game <ul style="list-style-type: none"> カルタゲーム。班でグループをつくり、教師が言った人を紹介する語のカードをとる。 		<ul style="list-style-type: none"> カルタカード

<p>10分</p>	<p>○Poka Poka Time in English</p> <ul style="list-style-type: none"> 友だちを学習した語を使って、ほめあう活動。 <p>He is active. She is gentle. など、となりの友だちのことを班の中で発表する。活動の前に、その友だちを紹介する語を黒板のフラッシュカードから選び、班員に紹介する。何組か発表する。</p>	<p>T: Who is your hero? Ss: Who is your hero? T: He is ○○. (有名人でも児童でも誰かの名前を入れる。) Ss: He is ○○. T: He is <u>cool</u>. Ss: カルタをとる。</p> <p>◎ある人について、自分の意見を含めて紹介している。 <行動観察・振り返りシート></p> <ul style="list-style-type: none"> デモンストレーションを見せて、これから行う活動を理解させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>○He is Mr. ○○. He is cool. ○She is ●●. She is friendly. ○She is Ms. ☆☆. She is fantastic.</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 隣の友だちを紹介する語が選んでいるか確認する。 活動させる前にもう一度練習する。 	
<p>5分</p>	<p>6 Review</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の活動を振り返る。 <p>・振り返りシートに記入をする。</p> <p>7 Greeting</p> <p>○あいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童の英語を使おうとする態度で良かったところを本時で学習した形容詞を用いてほめる。 優しい、かっこいい、親切だ…など、人を紹介するときの言い方を学んだことを確認する。 次回は、自分のあこがれの人を紹介する活動をするを告知し、紹介したい人を考えてくるよう児童に伝える。 具体的に何を学んだのか、何ができるようになったのか、を書かせる。 2名ほど発表させる。 あいさつをする。 	<p>・振り返りシート</p>

6 板書計画

